

## 食品ロス削減推進大賞 審査委員長講評

「食品ロス削減推進大賞」は本年度新たに創設された表彰制度です。第1回となる今回の「食品ロス削減推進大賞」には合計107件の御応募をいただきました。まず始めに、御応募いただいた多くの皆様に、審査委員を代表して、心からお礼を申し上げます。

「食品ロスの削減の推進に関する法律」前文にあるように、まさに「多様な主体」の皆様から様々な素晴らしい取組を御応募いただき、審査は難航を極めました。

その中で、波及効果、普及、継続性、将来性等について審査委員会で議論を行い、内閣府特命担当大臣（消費者及び食品安全）賞1点、消費者庁長官賞3点を推薦し、受賞者の決定に至りました。

内閣府特命担当大臣（消費者及び食品安全）賞に選ばれた「株式会社 ハローズ」は、店舗で発生した余剰食品等を、倉庫に保管することなくフードバンク団体等へ届ける活動を行っています。同社の手法は、「ハローズモデル」として特に西日本では広く普及しています。パート職員の一言がきっかけで始まった取組であることや、スーパーという、消費者が毎日利用する場所での取組ということが高く評価されました。

消費者庁長官賞には、以下の3点が選ばれました。

「井出留美」氏は食品ロス問題のジャーナリストとして、長年にわたり食品ロス問題について様々なメディア等を通じて発信を続けておられ、その活動が行政や地方など様々な相手に影響を及ぼしています。この、長年にわたる継続性とインフルエンサーとしての活動が評価のポイントとなりました。

「株式会社クラダシ」は、捨てられそうになる食品を、インターネットを通じて消費者に格安で販売するというビジネスモデルを構築されたフロントランナーです。売上金の一部を寄付したり地方創生プロジェクトを立ち上げたりするなど、単なる割引にとどまらない新規性と食品ロス削減を進める創意工夫が評価されました。

「チームそれいいね!!」は、長崎県立壱岐高校の取組です。地域における食品ロス問題を解消すべく、「食べてほしーる。」というシールを作成し、スーパーの商品に貼付するなど、高校生が主体となった積極的な取組が評価されました。高校生ということで、取り組んできた生徒さんが卒業してしまうことが考えられますが、審査委員会としては、後輩の皆さんに引き継いでこれからも取組を進めていただくことを、強く希望しています。

なお、多くの御応募をいただき、審査委員会の中で、上記4点のみを表彰するというのもったいないのではないかと、という意見が複数あり、事務局に「審査委員長賞」の授与を提案しました。

結果、食料品を販売するスーパーマーケットとして様々な取組を行った「株式会社静鉄ストア」、官民一体となり、市内完結型でフードドライブ活動に取り組んでいる「株式会社ダイエー・豊中市・社会福祉法人豊中市社会福祉協議会」、ごみ清掃芸人として、幅広い世代に食品ロスの実態を発信した「滝沢秀一」氏、インターネット販売を始めとする様々な取組を展開する「バリュードライバーズ株式会社」、福井県内で地域に根ざしたきめ細かな啓発活動を続けている「福井県連合婦人会」の5点を審査委員長賞に選びました。

これら合計9点の受賞作以外にも数多くの興味深い取組を御応募いただきました。残念ながら今回は入賞には届かなかったわけですが、これからも取組を御継続いただき、ぜひ来年度以降、更に発展した形で御応募いただくことを期待しています。

食品ロス削減は、それぞれの皆様が、「他人事」ではなく「我が事」として捉え、「理解」するだけでなく「行動」に移していただくことが重要です。今回の表彰をきっかけに、このような取組がより広く国民の皆様に共有され、食品ロス削減への取組の輪が広がり、各地域において様々な取組を国民運動として進めていただくことを期待しています。

食品ロス削減推進大賞審査委員会委員長 小林富雄